

2 基本台帳の作成

作成の目的 地図の作成につづいて調査初期の優先課題は、集落内の建造物等のすべての構築物の基本台帳の作成であった。地図上に全ての構築物をプロットして、個々の建造物を特定するとともに、集落の現況把握および本格調査のための基礎資料とすることを目的とした。そこで、モンフー集落・カムティン集落・ドンサン集落・ドアイザップ集落について、構築物の基本台帳を作成することとした。基本方針として、道路については溝等の構築物および舗装状況を対象とし、各敷地については塀・門・主屋・付属屋・敷地内の外構の状況を対象とすることとし、配置図および表で示すこととした。

調査体制 調査はベトナム建設省建築研究所が担当し、グエン・バ・ダン前建築研究所副所長の指導のもと、グエン・フン・オアイン、ドゥ・ティ・トゥ・バン、グエン・テム・ハン、グエン・ギア・ファイ、バク・バン・タイン、チャン・クアン・タイ、ファン・ビエト・ハイ、ド・ミン・トゥ、グエン・ビ・フォン、グエン・ホアン・ドン、ド・ノック・クアンがあたった。

敷地番号 調査にあたってまずおこなったのは、敷地に対しての固有番号の付加である。調査は第1次から第3次の3回おこない、第1次調査ではモンフー集落・カムティン集落、第2次調査ではドンサン集落、第3次調査ではドアイザップ集落を対象とした。そして回数ごとに、I区～IV区の大区に区分した。第1次調査では、I～III区をモンフー集落、IV区をカムティン集落とし、I～IVの大区ごとに、ハノイ国家大学が作成した地図で確認した敷地単位ごとに、001から3桁の番号を付した。第2次調査ではドンサン集落をI～IV区に分け、第3次調査ではドアイザップ集落をI～III区に分け、この2集落で

	調査回数	I	II	III	IV	合計
モンフー集落	1	113	125	112		350
カムティン集落	1				165	165
ドンサン集落	2	103	117	119	112	441
ドアイザップ集落	3	74	69	83		226

表4-1 基本台帳における各集落の敷地件数

は、それぞれI～IV区、I～III区を通して通し番号を付した。したがって、各敷地は、集落ごとに、I-001、のように表示して特定できることとなった。

建造物番号 つぎに、敷地内の建造物（門・主屋・付属屋）それぞれに、01から2桁の番号をふることにした。これにより、すべての構築物が、I-012-03、のように敷地番号と建物番号によって、最小単位で特定できるようになった。

現地調査 現地においては、塀・門・敷地内の主屋や付属屋、敷地内の外構の状況を配置図としてスケッチし、建造物については建造物番号を付した。そして、建造物および塀についてはその外寸をメジャーで計測し、その寸法を記した。また各建物について、その構造形式・屋根形式を記すとともに、その建築年代を聞き取り等で確認した。また、台帳に添付する写真撮影をおこなった。

基本台帳 基本台帳の構成は、屋根伏配置図、敷地に関するデータ、建物に関するデータで構成される。台帳の形式は図4-7・8に示す通りである。

配置図は建物を屋根伏で示し、屋根葺材によってその表現を変えている。また、敷地内の外構を示すとともに、井戸の位置を示している。敷地境に面した建物の寸法および塀の寸法とともに、敷地各辺の辺長を示している。建造物については、配置図において建造物番号が記され、建造物に関するデータが右に示される。建造物に関するデータとしては、建物名（用途）、建築年代、外寸、構造、屋根葺材を示す。建築年代については、その年代が建造物に刻まれた年代なのか、聞き取りによるものかを明示した。構造については、まず柱と壁それぞれについて、木造・ラテライト・煉瓦・モルタル（コンクリート）の区別を示し、次ぎに階高と屋根の形状（切妻・入母屋・陸屋根）、屋根葺材（シングル瓦・フランス瓦等）を示している。

別項には、所有者名とともに、敷地面積等を記し、写真を貼付している。写真は、道路からの敷地全景、敷地内全景、各建造物の全景を載せている。

なお、モンフー集落およびカムティン集落については奈良文化財研究所および昭和女子大学の調査隊によって悉皆的な確認調査をおこなった。この時に、

街路に面する塀および建造物の壁の材質（ラテライト・日干煉瓦・伝統煉瓦・新煉瓦・モルタルブロック）を確認するとともに、敷地前面の道路側溝の状況を確認している。また、敷地内の主屋や付属屋について建築年代の再確認をおこなった。同時にこれら門・塀・道路状況の写真撮影をおこない、主屋についてはその外観および内部写真を撮影して、データ化した。

基本台帳の活用 今回作成した基本台帳は、敷地の単位および所有関係を明確にし、さらには各構築物についても基本情報と写真によって詳細にデータ化したものである。この台帳は、今回の調査における基礎的な資料として活用したが、将来的には集落保存における、集落内のすべての構築物の管理台帳となるべき資料であり、今後の活用範囲は広いと考える。（鳥田敏男）

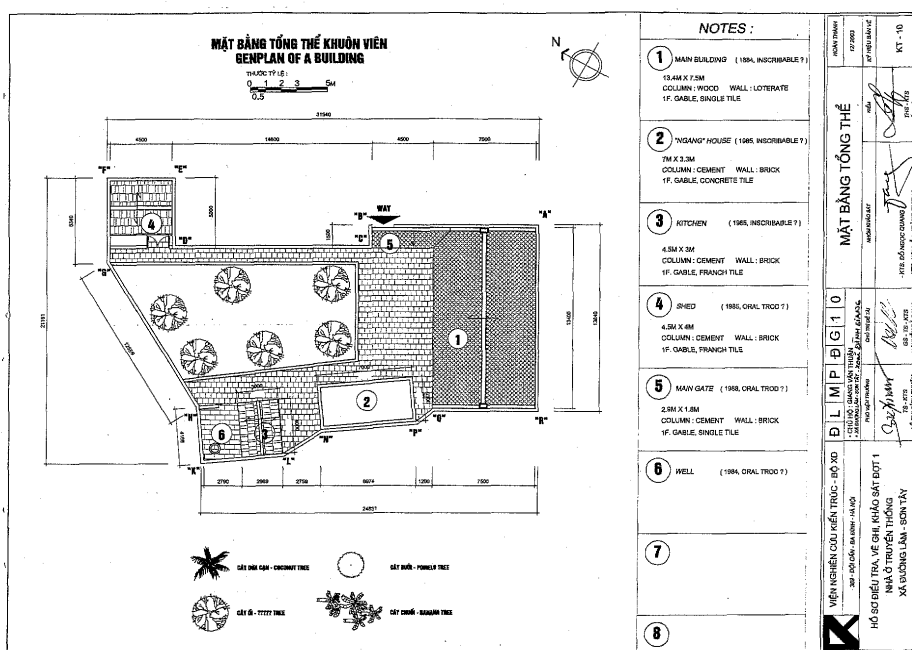


図 4-7 基本台帳（配置図・建物データ）

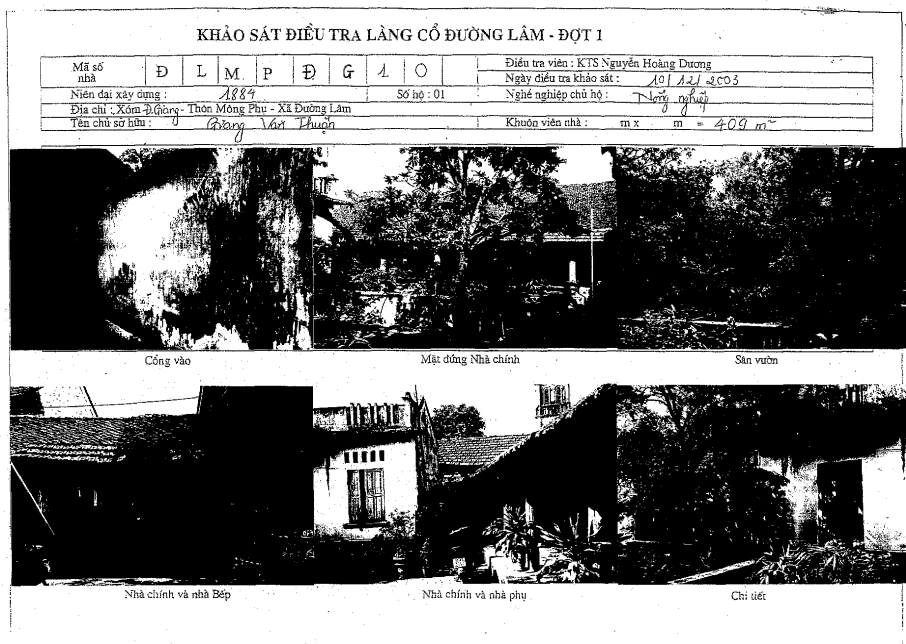


図 4-8 基本台帳（敷地データ・写真）